松阪牛 かわら版 13号

匠をたずねて 1

「松阪牛のふるさと」といわれる、松阪市飯南町。

昭和の時代から、数々の銘牛を育て上げた肥育農家の人々がここに住む。「匠」とも呼ばれる人々は、時代に流されることなく、かたくななまでに昔ながらの技で松阪牛を育て上げてきた。

松阪牛の礎を築いた３人の「匠」を訪ね、その労苦や次世代に伝えたいことを語ってもらった。

シリーズで紹介する。

森本　宇助さん(88)　松阪市飯南町深野　(その1)

松阪駅の思い出

松阪市の市街地から国道１６６号線を車で西へおよそ三十分。「いいなん」と書かれた牛をかたどった碑を右に折れ、だらだらと続く坂道を登り続ける。宇助さんは、標高およそ三百メートルの見晴らしの良い場所で、家族や牛たちと暮らしている。

「思い出の一枚」。こう言って宇助さんが差し出したのは、一枚のモノクロ写真。裏面には「昭和二十九年九月二十一日」と、撮影された日付が書かれている。

左から三番目が宇助さん。当時三十三歳。牛の手綱を握るのは、父親の故・竹五郎さんだ。

当時の松阪駅前で撮影された一枚の写真を糸口に、牛飼い名人といわれる宇助さんの話に耳を傾けた。

宇助さんが本格的に牛を飼い始めたのは十八歳のころ。父親の竹五郎さんも牛を飼っており、自然と牛飼いになった。

当時、どの家も玄関横にしつらえた「うちまや」と呼ばれる牛舎で牛を飼い、家族のように暮らしていた。

深野地区の多くの農家が田畑を耕したり、荷物を運んだりする役牛を飼っていた。

竹五郎さんは牛を大切にすることで知られ、「牛の竹さん」と呼ばれていた。宇助さんは「それはもう、牛のことを本当に大切にしたもんや」と、振り返る。　つづく

目指すは、松阪肉牛共進会本選！

中間検査を実施しました

11月27日に松阪市で開かれる、松阪肉牛共進会に向け、牛の健康状態などを調べる中間検査が８月中旬に実施されました。

獣医師や担当者らが、出場を予定している 54 戸の農家を訪れ、計 153 頭を１頭ずつチェックしました。

松阪肉牛共進会は、生きた松阪牛の品評会で、厳しい審査を経て、その年の松阪牛の女王を決定します。

本選に出場できるのは 50 頭だけ。
10月29日には、中間検査をクリアした牛を集めて予選会を開き、この 50 頭を選びます。
どの農家も、本選出場を目指し、それぞれの牛を育て上げます。

信頼の証 松阪牛個体識別管理システム

シールに印字された 10 ケタの個体識別番号で松阪牛の血統や農家の情報、移動履歴などを知ることができます。

皆さまに安全で安心な松阪牛をお届けする証を目印にお買い求めください。

発行　松阪市役所農林水産課畜産係　三重県松阪市殿町　TEL0598(53)4119

松阪牛協議会ホームページ http://www.matsusakaushi.jp もご覧ください